

令和6年度 第3回学校運営協議会記録

1. 日時

令和7年2月10日（月）13:20～14:40

2. 場所

本校 校長室

3. 出席者

大阪教育大学教授 廣木義久

八尾市内学習塾代表 児玉隆

八尾市立成法中学校校長 小山健治

本校PTA会長 大西景子

本校同窓会副会長 松村康隆

本校

山上浩一(校長) 中村泰造(教頭) 百軒由香子(事務長) 水野道尚(首席) 久世逸平(首席)

岡野佳保里(教務主任) 久米祥子(進路指導主事) 藤本一典(1学年主任) 村上典子(3学年主任)

4. 欠席者

八尾市立八尾小学校校長 浅野貴至（公務のため）

5. 内容

次の項目について事務局からの説明の後、意見交換を行った。

- ① 学校運営協議会の運営に関する要綱の一部改正
- ② 令和6年度学校評価
- ③ 令和6年度学校教育自己診断結果分析
- ④ 令和6年度授業アンケート結果
- ⑤ 77期生の共通テストおよび国公立大学出願者数、私立大学合否
- ⑥ 令和7年度使用副読本
- ⑦ 令和7年度学校経営計画

以下は各議題ごとに行われた意見交換の主な内容である。

【令和6年度学校評価】

- 学校運営において、教職員の意見が十分に反映されていない現状を受け、首席が推進している「職場環境改善プロジェクト」の成功をめざす。先生方が顔を見て交流できるようになれば、校長に意見が言いやすくなる雰囲気にもつながるのではないかと。
- 課外学習時間が昨年度と比べて30分以上増加した要因として、以下の2つが考えられる。質問内容を「自宅学習時間」から「課外学習時間」に変更したことで答えやすくなったこと。1年生の進路担当が考査前に学習時間調査や学習計画の作成を実施したことで、生徒の学習意識が向上したこと。（よい取り組みであれば単年度で終わらず引き継いでいきたい。）

- 本校の入部率が非常に高いことは、生徒主体の活動が活発であり、「文武両道」をめざす姿勢の表れであると考えられる。特に、多くの生徒が引退まで部活動を継続している点は、本校の強みである。一方で、働き方改革と部活動のバランスをどのように取るかについて、安全衛生委員会等で議論を重ねているものの、現時点では有効な解決策が見いだせていない。

【令和6年度学校教育自己診断結果分析】

PTA 活動の評価は高いが、「わからない」と回答した割合が非常に多かった。つまりこの高評価は、主に PTA 活動に関心のある層によるものであり、関心のない保護者の認識が十分に反映されていない可能性を示している。そこで、来年度は合格者説明会や入学式等の機会を活用し、PTA 活動の意義や PTA 会費が学習・進路支援などに活用されていることを周知し、より多くの保護者に理解と協力を求める方針とする。この内容は次期 PTA 会長に引き継いだ。

【令和6年度授業アンケート結果】

生徒は「紙と鉛筆」を使った学習習慣に慣れているため、デジタルプリントに対して違和感を抱くことが多い。また、操作時間が増えると視力の低下などにつながる恐れもある。一方で、デジタルツールの活用自体は否定されるものではなく、Chromebook などを用いた P C スキルの習得は不可欠である。今後はアナログとデジタルをうまく組み合わせて運用していく必要があるのではないかと。

【令和7年度学校経営計画】

- 学校経営計画の中期的目標について承認を得た。
- 「めざす学校像」や「求める生徒像」を改めて確認することで、本校の入試問題の難易度が適切であることを再認識した。また、広報活動においては、本校が求める生徒像を中学生に的確に伝えることの重要性が再確認された。